

19-1953

日本組織培養学会
平成6年6月25日

会員通信
第81号

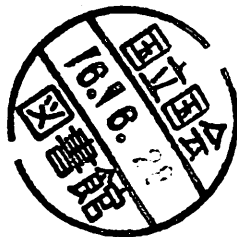
発行責任者
※宇田川康博（慶應大医学部）
佐藤 靖史（大分医科大学）
増井 徹（京都大医学部）
※〒160 東京都新宿区信濃町35
慶應大学医学部産婦人科
電話 03-3353-1211 内2393
Fax 03-3226-1667

§ 第9回日本組織培養学会秋季公開シンポジウム案内

本年度の秋季シンポジウムは、近年進展著しいアポトーシス研究の現状を紹介することを目的として、下記のようなプログラムを組みました。いずれも組織培養技術を駆使して解析されている我が国を代表する研究者です。本学会員、非学会員を問わず、多数の参加を歓迎いたします。

世話人 鈴木 文男

テーマ アポトーシス研究の新展開
開催日 1994年11月12日（土曜日）午後1時～午後5時
会場 金沢大学薬学部講堂（金沢市宝町13番1号）
参加費 無料



プログラム

日本組織培養学会会長挨拶

蔵本 博行（北里大学医学部）

1. プログラムされた細胞死としてのアポトーシス

座長 二階堂 修（金沢大学薬学部）

1-1 アポトーシス概論 - 胸腺細胞を例として -

山田 武（東邦大学医学部）

1-2 アポトーシスとDNA断片化

田沼 靖一（東京理科大学薬学部）

2. 生体適応反応としてのアポトーシス

座長 鈴木 文男（金沢大学薬学部）

2-1 ウイルス感染による宿主細胞のアポトーシス誘導機構

中西 義信（金沢大学薬学部）

2-2 ウイルス感染とアポトーシス - AIDSの発症を中心として-

小林 信之(山口大学医学部)

3. アポトーシスの分子機構

座長 山田 武(東邦大学医学部)

3-1 bcl-2によるアポトーシスの制御

辻本 賀英(大阪大学医学部)

3-2 Fas リガンドとFas;a death factor and its receptor

長田 重一(大阪バイオサイエンス研究所)

終了後、小懇親会を開催いたします(無料)。多数ご参加下さい。

連絡先: 〒920 金沢市宝町13番1号

金沢大学薬学部放射薬品化学教室 鈴木 文男

Tel. 0762-62-8151 (内線6442) Fax. 0762-24-5197

§ 第68回日本組織培養学会大会案内

第68回日本組織培養学会大会を下記の予定で開催しますので、奮ってご参加ください。今回は、一般講演に力を注ぎ、この学会が研究会であったころの初心に帰って各人の講演と討論時間をできるだけ長く取れるように学会運営を設定したいと思っております。演題募集の際には、会員各位の積極的な話題提供をお願いします。

期 間 : 平成7年5月17日(水)~19日(金)

場 所 : 長崎厚生年金会館

大会事務局 : 長崎大学薬学部放射薬品学

〒852 長崎市文教町1-14

大会専用電話およびファクシミリ 0958-44-5504

世話人 渡邊 正己

事務担当 奥 喜美子

§ 平成6年度第1回日本組織培養学会幹事会議事録

日 時 : 平成6年4月20日(水) 11時~13時、17時~18時30分

場 所 : 岡山大学医学部内会議室(岡山県岡山市)

出席者 : 蔵本博行(会長)、加治和彦、沖垣 達(兼研究教育システム委員会委員長)、

宇田川康博、蓮村 哲、浜口和之、増井 徹、西 義介、山田堅一郎、
秦 宏樹（以上現幹事）、大野忠夫（兼細胞バンク委員会委員長）、宮崎正博、
佐藤靖史、渡辺 純（以上新幹事）、星 宏良（編集委員会委員長）、
小山秀機（細胞工学委員会委員長）、松村外志張（細胞バンク委員）、
難波正義（第67回大会会長）

1. 報告事項

1) 会長報告（蔵本会長）

- ① 前回幹事会で会長より提案され、承認された名誉会員推戴内規に則り、佐藤二郎、山根 績両先生の名誉会員への推戴が提案された。
- ② 平成5年度の日本組織培養学会の活動報告が示された。

2) 庶務報告（庶務幹事）

① 日本組織培養学会幹事選挙結果報告

開票日・場所：平成6年4月5日（火）北里大学医学部会議室

開票者：加治和彦、秦 宏樹（選挙管理委員）、浜野美恵子（当学会会員）、
古屋かおり（北里大学産婦人科秘書）

投票総数：123通

有効投票数：116通（内白票：1通）

無効投票数：7通

開票結果

40歳以上幹事

大野 忠夫：32票
宮崎 正博：30票
三井 洋司：20票
難波 正義：17票
西田 正人：15票（次点）

40歳未満幹事

佐藤 靖史：17票
渡辺 純：16票
植田 正嗣：14票
仙波 まり：13票
深町 博史：13票（次点）*

*学会細則に則り年少者を上位とした

以上の結果大野忠夫、宮崎正博、佐藤靖史、渡辺 純先生は平成6年4月1日～平成8年3月31日、三井洋司、難波正義、植田正嗣、仙波まり先生は平成7年4月1日～平成9年3月31日の間幹事を担当して頂くことに決定した。

② 新入会者・退会者（平成5年10月～平成6年4月）

入会希望者：14名（個人会員）

退会者：9名（個人会員）

③ 日本学会会議関連研究連絡委員会・会員の承認の件

関連研究連絡委員会：遺伝学

会員の候補の認定者：黒田行昭

④ 会費未納者の処遇の件

3会計年度以上の会費未納者は、平成6年4月1日より会員通信、組織培養研究の送付を停止する。但し然るべき会費が納入された時点より送付を開始する。

⑤ 学協会著作権協議会への加盟の件

平成5年度に会員通信に問題提起をしたことに対し、いくつかの問題点が指摘された為、再度今年度中に誌上において討論を行い、問題点を整理し理解が得られた時点で、参加の方向で幹事会に提案する。

3) 会計報告（会計幹事）

① 平成5年度決算見込み

平成5年度一般会計において、広告収入・賛助会員会費の減収が各60万円程度あった。特別会計は予算通りに施行された。

② 平成6年度予算案

上記収入減のため、次年度からは次年度繰越金を減じていく赤字会計になることが予想される。特別会計中、今年度は難波大会会長の御尽力で多数の外国人招請講演が成されたためその招待費として30万円計上する。これらの減収見込みを受け、会長より各業者に対する広告等の趣意書を作成し、増収の努力をする旨の意見が出された。

4) 奨励賞選考報告（奨励賞選考幹事）

平成6年度日本組織培養学会奨励賞は、応募総数7名の中より選考委員会において、ワダワ レヌー先生（生命工学工業技術研究所）、松浦知和先生（東京慈恵医科大学）の2先生に決定された。

5) 会員通信報告（会員通信幹事）

平成5年度は会員通信第79号（平成5年7月号）、第80号（平成5年12月）の2号を発行した。

6) 各種委員会報告

① 編集委員会報告（星 宏良委員長）

a. 平成6年度も年4回の組織培養研究発行する予定であり、それに伴う広告収入の充実化を計る必要がある。

b. 編集委員の半数改選にともない現委員である梅田 誠、高木良三郎先生に代わり、蔵本博行（北里大学）、岡本哲二（広島大学）先生が委員として加わることが提案された。

c. 平成5年度の受理論文は19編で、14編が英文であった。

② 細胞バンク委員会報告（大野忠夫委員長）

a. 「第三次細胞バンク委員会報告書」が提出された。

b. 継続して第四次細胞バンク委員会が存続することが提案された。

c. 「人体組織及び材料を取り扱う場合の基本的留意事項」に関する中間報告書が提出され、次回幹事会までの期限付き検討事項とされた。（松村外志張委員）。

③ 細胞工学委員会報告（小山秀機委員長）

- a. 平成5年度細胞工学シンポジウム「遺伝子導入研究の新しい展開」が平成6年4月20日岡山大学医学部で開催された。
- b. 継続して細胞工学委員会が存続することが提案された。

④ 研究教育システム委員会報告（沖垣 達委員長）

- a. 平成5年度秋季シンポジウム「染色体の構造と機能」が、平成5年11月13日関西学院大学で開催された。
- b. 平成6年度秋季シンポジウム「遺伝子導入による新しい癌関連遺伝子の検索」（鈴木文雄世話人）は平成6年11月12日金沢大学で開催予定。
- c. 「組織培養の技術」第3版の刊行企画。
- d. 培養技術実習講座開設の検討。
- e. 平成5年度収支報告。

2. 協議事項

- 1) 平成5年度決算見込み、平成6年度予算案が協議の上承認された。
- 2) 新入会希望者14名の入会が承認された。
- 3) 名誉会員推戴
前回幹事会で蔵本会長より提案され、承認された名誉会員推戴内規に則り、佐藤二郎、山根 績両先生の名誉会員推戴が、満場一致で承認された。
- 4) 以下のシンポジウムの開催とその世話人が承認された。
平成7年度秋季シンポジウム世話人：蔵本博行（北里大学）
- 5) 時々の各委員会の継続ならびに委員長が承認された。
細胞バンク委員会（大野忠夫委員長）
細胞工学委員会（小山秀機委員長）
研究教育システム委員会（沖垣 達委員長）
細胞バンク委員会の新委員2名の推薦があり、協議の上承認された。これは総会決議事項であるので、総会に議題として提出する。
- 6) 新幹事を含めた平成6年度幹事の役割分担が、蔵本会長より提案され、承認された。
 - ①庶務幹事：大野忠夫、秦 宏樹
 - ②会計幹事：宮崎正博、安野 洋
 - ③奨励賞選考幹事：加治和彦、渡辺 純
 - ④会員通信幹事：宇田川康博、佐藤靖史
 - ⑤編集委員会幹事：浜口和之
 - ⑥細胞バンク委員会幹事：浜口和之
 - ⑦細胞工学委員会幹事：渡辺 純
 - ⑧研究教育システム委員会幹事：加治和彦
 - ⑨会計監査：黒木登志夫、沖垣 達

§ 平成6年度第67回日本組織培養学会総会議事録

日 時：平成6年4月22日（金）12時30分～13時30分

場 所：岡山大学医学部図書館講堂

1. 議長選出：宮崎正博先生（難波正義大会会長代行）
2. 会長報告：蔵本会長
 - 1) 平成5年度日本組織培養学会活動報告
 - 2) 名誉会員推戴報告：佐藤二郎先生、山根 績先生
3. 庶務報告：加治幹事（詳細は幹事会議事録参照）
 - 1) 幹事選挙結果報告
 - 2) 新入会者、退会者報告
 - 3) 日本学術会議関連研究委員会、会員推薦報告
 - 4) 長期会費未納者の処遇
 - 5) 学協会著作権協議会への加盟の件
 - 6) 平成6年度幹事役割分担報告
4. 会計報告、承認：西幹事（詳細は幹事会議事録参照）
 - 1) 平成5年度一般会計、特別会計決算見込み報告承認
 - 2) 平成6年度予算報告、承認
大会援助費、外国人招待費の引き上げが提唱され、今後の幹事会の検討議題とされた。
5. 奨励賞報告：沖垣幹事
平成6年度日本組織培養学会奨励賞選考結果報告：レヌーワダワ先生、松浦知和先生
6. 会員通信報告：増井幹事
平成5年度会員通信第79号、80号発行
7. 各種委員会報告（幹事会議事録参照）
 - 1) 編集委員会報告：星委員長
編集委員の半数改選に伴う新委員として、蔵本博行、岡本哲二両先生が承認された。
 - 2) 細胞バンク委員会報告：大野委員長
 - 3) 細胞工学委員会報告：小山委員長
 - 4) 研究教育システム委員会報告：沖垣委員
8. 名誉会員推戴状授与
9. 平成6年度奨励賞授与
10. 閉会

§ 日本組織培養学会会計報告

(本報告の内容は総会にて承認されました)

平成5年度収支決算が別掲のようになりましたので報告いたします。本年度は4月に大会が開催された関係上、平成5年度決算分は決算見込という形になります。従いまして、正式な決算報告は次回に掲載を予定しております。会計監査はその際に行う予定です。

- 1) 一般会計収入の部：賛助会員会費の徴収が平成5年度予算に比べ60万円ほど少なくなりました。また、広告収入も320万円の予算に対して、260万円強と60万円ほど少なくなりました。一方、雑収入は今まではほとんどがバックナンバー収入ですが、今年度からは別刷り代として236,290円計上出来ましたので、雑収入としては31万円ほど増収になりました。結局、平成5年度予算967万円に比べ、9,021,646円となり、差し引き65万円ほどの減収となっております。
- 2) 一般会計支出の部：支出項目の中心となる研究雑誌発行費が平成5年度予算では560万円計上しておりましたが、460万円強で済みました。これは偏に編集委員のご努力によるところが大きいのですが、発行に関するシステムが出来上がり、版の基本的な体裁が整ってきたためということです。現在1号あたり140万円として見積もっている発行費を120万円位に落とせそうです。IACC加盟費、同事務費は合計30万円計上しておりますが、本年度も支弁されませんでした。予算を大きく越えたものとしては、雑費で、これは幹事選挙関連印刷費が計上されたためです。その他は予算にほぼ近いあるいは予算を下回っており、大きな問題はないと考えます。結局、総計1,089万円の予算に対して、9,473,410円の支出になっており、140万円ほどの支出の減少が見込まれます。

以上の結果、一般会計の平成5年度収支はほぼ45万円の赤字となりましたが、これは前年度繰越金で充当します。

- 3) 特別会計収入の部：平成5年度予算に比べ、合同酒精からの寄附金が約11万円、朝倉書店からの出版収益が18万円減収になっております。利子収入は学会事務センターの方でMMFで運用して戴いております。結局、特別会計収入は130万円の予算に対して、1,059,817円の収入で、約14万円の減収となりました。
- 4) 特別会計支出の部：平成5年度予算100万円に対して、総ての科目が順当に支弁されました。結局、特別会計支出は100万円となりました。

総括すると、平成5年度の決算は一般会計で賛助会員会費と広告収入に大きな減収が生じました。この要因は、バブル経済の反動の影響です。残念なことに、経済活動が学会活動に如実に反映されており、影響は甚大です。幸いなことに、編集幹事のご尽力で、今回は年4回の研究誌発行を継続できました。当面、若干の赤字であれば、繰越金で充当できますが、このような状態が永く続くと、受益者負担の原則で、学会費値上げを考慮しなくてはならなくなります。経済の回復を切に願うところです。

§ 日本組織培養学会 平成5年度決算見込

(平成5年4月1日～平成6年3月31日)

一般会計

収入の部

勘定科目	平成5年度予算	平成5年度決算見込	摘要
正会員会費	3,720,000 円	3,875,600 円	4号分
賛助会員会費	2,610,000	2,070,000	
入会金	50,000	32,000	
広告収入	3,200,000	2,641,332	
雑収入	90,000	402,714	
小計	9,670,000	9,021,646	
前年度繰越金	1,983,917	1,983,917	
合計	11,653,917	11,005,563	

支出の部

勘定科目	平成5年度予算	平成5年度決算見込	摘要	
研究誌発行費	5,600,000 円	4,632,854 円	4号分	
会員通信発行費	400,000	441,252		
大会補助金	400,000	400,000		
秋季ソシヤル補助金	300,000	300,000		
IACC加盟費	200,000	0		
同事務費	100,000	0		
業務委託費	1,300,000	1,321,570		
研究誌発送費	800,000	790,745		
事務通信費	600,000	576,585		
会員名簿作成費	600,000	576,182		
幹事会議費	300,000	216,920		
編集会議費	200,000	30,465		
雑費	60,000	186,837		
予備費	30,000	0		
小計	10,890,000	9,473,410		
次年度繰越金	753,917	1,532,153		
合計	11,653,917	11,005,563		

特別会計

収入の部

勘定科目	平成5年度予算	平成5年度決算	摘要
寄附金収入	700,000 円	586,810 円	合同酒精より
出版収益	300,000	119,087	朝倉書店、他より
利子収入	300,000	339,500	
雑収入	0	14,420	JICST 許諾抄録料
小計	1,300,000	1,059,817	
前年度繰越金	9,273,926	9,273,926	
合計	10,573,926	10,333,743	

支出の部

勘定科目	平成5年度予算	平成5年度決算	摘要
外国人招待費	100,000 円	100,000 円	
学会奨励賞	300,000	300,000	
細胞バンク委員会	300,000	300,000	
細胞工学委員会	200,000	200,000	
教育システム委員会	100,000	100,000	
雑費	0	0	
小計	1,000,000	1,000,000	
次年度繰越金	9,573,926	9,333,743	
合計	10,573,926	10,333,743	

5) 一般会計収入の部：広告収入を前年度予算に比べ、60万円低く見積もって260万円に設定しました。その他の科目はほぼ前年度と同等といたしました。小計917万円と60万円少なくなっております。

6) 一般会計支出の部：変更点を述べます。研究誌発行費を前年度予算に比べ、60万円低く見積り、500万円に設定しました。業務委託費が前年度予算を若干オーバーしたため、平成6年度は140万円としました。研究誌発行費を5万円増の85万円に、事務通信費を10万円増の70万円にそれぞれ設定しました。会計上の問題ですが、例年、会員名簿作成費は第1年目に計上した予算額が第2年目には繰越金に編入され、実際の繰越金ではないのに繰越金扱いになっており、不都合でありました。今年度より会員名簿作成費（2年間の積み立て）を会員名簿作成費と名簿作成積み立て金に分け、第1年度は名簿作成積み立て金として、支出科目で処理することにしました。従いまして、今年度は名簿作成の第1年目に当たりますので、会員名簿作成費を0円、名簿作成積み立て金を30万円といたします。以上、総計1,024万円となり、前年度（1,089万円）より65万円の減少となっております。

結局、収入見込み917万円に対して、支出が1,024万円となり、差額の107万円は

前年度繰越金より充当させることとなります。繰越金を充当させないでバランスさせるには、広告収入を通年並に増加させることがまず必要です。また、IACC参加加盟の問題、文部省の学術出版物指定の問題、発行経費の削減（会員通信と研究誌の同時発送など）など他の収支科目についても、考慮の余地があるとは思いますが。

7) 特別会計収入の部：寄附金収益は前年度より、若干減少するものとして、60万円として設定しました。組織培養学会編集の出版物はどれも現在末期にさしかかっており、出版収益はこのままでは減少していくものと思われます。但し、秋に「細胞成長因子Ⅲ」、また、来春には「組織培養の技術」の第3版が出版される予定ですので、これらの出版物が収益に寄与する可能性が大いにあります。しかし、30万円の収益は難しいかもしれません。結局、前年度130万円の予算を121万円としました。

8) 特別会計支出の部：本年度の外国人招待費として、今回は特に30万円を支弁することにいたしました。これは、例年に比べ、今回の春の大会では特に多くの（18名）外国人研究者を招待することになり、大会長より特別な要請があったものです。幹事会としては積極的に援助することとして承認いたしました。学会奨励賞は例年通り、3種の時限委員会は本年度も幹事会で承認されましたので、補助金額は例年通りといたします。結局、前年度予算100万円に対して、120万円の支出となります。

一般会計は繰越金が900万円を越えており、特別会計内で収支バランスが多少変動しても、大きな影響はありません。但し、会計の主要部分が寄附金で構成されておりますので、信託基金の1種と考えなくてはなりません。従って、当然のこととは思いますが、一般会計の補填には使用すべきではありません。

平成6年度予算を別掲のようにいたしましたので、報告します。

（会計幹事：安野、西）

§ 日本組織培養学会 平成6年度予算

(平成6年4月1日～平成7年3月31日)

一般会計

収入の部

勘定科目	平成6年度予算額	平成5年度決算額	摘要
正会員会費	3,720,000 円	3,720,000 円	4号分
賛助会員会費	2,500,000	2,610,000	
入会金	50,000	50,000	
広告収入	2,600,000	3,200,000	
雑収入	300,000	90,000	
小計	9,170,000	9,670,000	
前年度繰越金	* 1,532,153	1,983,917	*H.5 決算見込額
合計	10,702,153	11,653,917	

支出の部

勘定科目	平成6年度予算額	平成5年度予算額	摘要
研究誌発行費	5,000,000 円	5,600,000 円	4号分
会員通信発行費	400,000	400,000	
大会補助金	400,000	400,000	
秋季シンポジウム補助金	300,000	300,000	
IACC加盟費	200,000	200,000	
同 事務費	100,000	100,000	
業務委託費	1,400,000	1,300,000	
研究誌発送費	850,000	800,000	
事務通信費	700,000	600,000	
会員名簿作成費	0	600,000	
名簿作成積立金	300,000	0	
幹事会議費	300,000	300,000	
編集会議費	200,000	200,000	
雑費	60,000	60,000	
予備費	30,000	30,000	
小計	10,240,000	10,890,000	
次年度繰越金	462,153	763,917	
合計	10,702,153	11,653,917	

特別会計

収入の部

勘定科目	平成6年度予算額	平成5年度予算額	摘要
寄附金収入	600,000 円	700,000 円	合同酒精より
出版収益	300,000	300,000	
利子収入	300,000	300,000	
雑収入	10,000	0	
小計	1,210,000	1,300,000	
前年度繰越金	9,333,743	9,273,926	
合計	10,543,743	10,573,926	

支出の部

勘定科目	平成6年度予算額	平成5年度予算額	摘要
外国人招待費	300,000 円	100,000 円	
学会奨励賞	300,000	300,000	
細胞バンク委員会	300,000	300,000	
細胞工学委員会	200,000	200,000	
教育システム委員会	100,000	100,000	
雑費	0	0	
小計	1,200,000	1,000,000	
次年度繰越金	9,343,743	9,573,926	
合計	10,543,743	10,573,926	

§ 第67回日本組織培養学会大会を終えて

岡大医学部・分子細胞医学研究施設・細胞生物部門 難波 正義

今回の学会では「ヒト細胞の老化・不死化・癌化」のテーマで平成6年4月21日朝より翌22日正午まで国際シンポジウムを行わせていただきました。したがって、本来の組織培養学会の一般演題33題のうち14題をポスター発表に回し、残り19題を22日午後講演していただくという過密スケジュールになり、会員の皆様に時間的に大変ご迷惑をお掛けしました。その上、さまざまな研究分野の方々に構成される会員のなかには、当然上記のシンポジウムの内容に関心が少なかった人達もおられるわけで、内容的にも皆様にご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。

ポスター発表の半分はシンポジウム関連の演題をいただいたので、英文で発表をお願いして、できるだけその仕事を外国の人達にも宣伝したいと企画しました。プログラムも英文でお願いしておけば、より良かったのではないかと残念に思っています。

シンポジウムは国外より8名、国内より8名で行いましたが、時間がもう少し欲しかったと思います。かなりのお金で外国から招待した各演者に1時間は取るべきだったと

後悔しています。この時間不足の原因は瀬戸内海のボートクルーズなどという遊びを考えたせいです。でも、この計画は皆様に大いに楽しんでいただけたのではないのでしょうか。シンポジウムの時間不足を船上でのディスカッションで補っていただければ幸いです。船上パーティーは最後まで逃げ出せないで、参加者同士がよく話し合えると云った環境の利点は絶大でした。

シンポジウムでは、細胞の老化とトランスフォーメーションが丁度ミラーイメージになっていることをよく理解していただけたと思います。“細胞老化せずんば癌化にいたる”です。ヒト細胞のトランスフォーメーションで6～7段階の遺伝的変化が必要なことが示されました。老化関連遺伝子、腫瘍抑制遺伝子、オンコジン、未知の遺伝子などの関与が予想されます。今後、これらの遺伝子がどのような順序で、どのように相互に係わりながら、細胞を老化、不死化、癌化へと運命づけてゆくのか、興味もたれます。人体中に生じた癌とその正常組織とを比較するだけではヒト細胞の発癌過程を詳細に解明することは困難だと思います。In Vitroのトランスフォーメーションの実験系を利用することで、ヒト細胞の多段階的発癌過程に関与するそれぞれの要因が明らかにされることと確信しています。

このシンポジウムを契機として、上記の研究分野に関心をもたれ、研究をやってみたいと考えられる研究者が一人でも多くなることも切望するしだいです。また、このシンポジウムの内容は共立出版より出版する予定です。

現在の経済的な不況のなかで学会の資金集めの苦勞が当初予想されました。また、無駄な経費をなるべくなくし、1人でも多くのシンポジストを国外から招待しようと考えました。そこで、会場を医学部内とし、また、会の運営も教室員が中心で行いました。そのために、いろいろのご不便やご不自由をおかけしたと思います。どうか以上の状況をご理解の上、お許しいただきたいと存じます。

最後に、蔵本学会会長はじめ学会役員、シンポジウム・一般講演の演者、座長、学会に参加下さった諸先生に、第67回日本組織培養学会大会のために暖かいご援助をいただきましたことを心からお礼申し上げます。

§ 平成6年度細胞工学シンポジウムを終えて

細胞工学委員会委員長 小山 秀機

去る4月20日、岡山大学医学部で開催された組織培養学会の初日、「遺伝子導入研究の新しい展開」という題目で、細胞工学シンポジウムを行いました。現在、遺伝子導入法は生命科学のあらゆる分野で日常に用いられるごくありふれた技術となっています。そこで、本シンポジウムは新しい遺伝子導入法、遺伝子導入の興味深い応用、今後大いに発展が期待される研究など、トピックを集めて開催することとしました。このような主旨のもとに5名の先生方を講師としてお願いし、最先端のご研究を発表いただきました。培養学会の会員、非会員を含め予想外の多くの方々に参加していただき、活発な議論をいただきました。中でも特に遺伝子治療への応用では正に白熱した議論となり、も

もう少し時間があればと残念です。このシンポジウムが参加いただいた方々の研究の一助になれば、主催者として大変嬉しく思います。最後に、開催にあたり、学会世話人の難波正義先生と教室員の方々に大変お世話になりました。ここに厚くお礼申し上げます。

§ 第9回日本組織培養学会奨励賞募集要項(平成7年度)

本奨励賞は、昭和60年(1985年)9月、本学会共催のもとに仙台で開催されました第3回国際細胞培養会議(3rd International Cell Culture Congress)の世話をされました山根 續会員から、運営余剰金500万円を若手研究者の研究を奨励するために寄付いただいたものに基づいて設けられました。本学会ではこれまですでに下記の通り8回、12名の方々に奨励賞を授与しております。

第1回 昭和62年度

菅 幹雄(東北大学・抗酸菌研)

培養器壁に吸着した線維芽細胞由来因子によるヒト臍帯静脈内皮細胞の増殖刺激(第58回大会発表)

第2回 昭和63年度

宮崎 正博(岡山大学・医学部・癌研)

初代無血清培養成熟ラット肝細胞の長期維持の試み(第60回大会発表)

武富 真子(日本たばこ協・中研)

ツパイア細胞の樹立とその変異原性試験への応用(第60回大会発表)

第3回 平成元年度

越智 崇文(帝京大学・薬学部)

カドミウム毒性に対する細胞防御因子としてのグルタチオンおよびメタルチオネインに関する研究(第60回大会発表)

山田 雅保(重井医学研究所)

腎糸球体上皮細胞株(SCEI)の樹立、培養条件および特性に関する研究(第61回大会発表)

第4回 平成2年度

鈴木 啓司(横浜市大・医学部)

ゴールデンハムスター胎児由来細胞におけるX線誘発細胞がん化の多段階性(第61回大会発表)

第5回 平成3年度

柴沼 質子(東大・医科研・癌細胞)

活性酸素による細胞増殖制御(第62回大会発表)

第6回 平成4年度

秦 宏樹 (北里大学・医学部)

Immunocytochemical determination of estrogen and progesterone receptors
in human endometrial adenocarcinoma cells (Ishikawa cells)

(第63回大会発表)

第7回 平成5年度

鈴木 崇彦 (東大・医学部)

培養心筋細胞による血管収縮ペプチド, エンドセリンの産生

(第65回大会発表)

白 立岩 (岡山大学・医学部)

4-Nitroquinolin 1-oxide によるヒト正常線維芽細胞の不死化

(第65回大会発表)

第8回 平成6年度

レヌー ワダワ (生命工学工業技術研究所)

Molecular mechanism of mortality and immortalization in mouse fibroblasts

(第66回大会発表)

松浦 知和 (慈恵医大・医学部)

培養伊東細胞におけるビタミンA代謝に関する研究

—電顕オートラジオグラフィ—を用いて—

(第66回大会発表)

過去2年度内(平成5年度、平成6年度)に筆頭者として日本組織培養学会大会(第66回、第67回)で発表された方のうち、学術雑誌に発表された方(第一著者で受理中も可)で40歳未満(平成7年4月1日現在)の日本組織培養学会に所属する若手研究者に授与されます。条件にあった方は自薦、他薦いずれも結構ですので、別紙推薦書を添付の上、ふるって応募されますようご案内申し上げます。

〆切期限は平成6年8月31日といたします。

例年、ご推薦が少なく、選考委員会では多数の方々の推薦を期待しておりますので該当される若手研究者を奮ってご推薦(自薦可)下さい。

なお推薦にあたっては以下の書類、論文の別冊を下記宛先までご送付ください。

- | | |
|------------------------------------|-----|
| 1) 推薦/自薦書(本要項次頁) | 1通 |
| 2) 内容要旨(400字詰B5版原稿用紙2枚以内) | 1通 |
| 3) 推薦状(自他薦可) | 1通 |
| 4) 履歴書(B5版) | 1通 |
| 5) 発表論文のコピー(別冊または in press の場合は原稿) | 15部 |

書類送付先：〒228

神奈川県相模原市北里1-15-1

北里大学医学部病理

渡辺 純 宛

TEL:0427-78-9020

* (奨励賞選考幹事：加治和彦、渡辺 純)

なお、封筒の表に、「日本組織培養学会奨励賞選考書類」と明記願います

日本組織培養学会奨励賞－選考規定

- 第1条 名称：日本組織培養学会奨励賞と称する。
- 第2条 目的：将来性ある有能な若手研究者の研究を奨励し本学会の活性化を図ることを目的とする。
- 第3条 授賞対象：本学会で発表され（形式不問）、学術雑誌（邦文、欧文双方とも可）に掲載された論文（受理論文可）の第1著者であって、当該会計年度の4月1日現在で40歳未満の会員であること、原則として毎年1～2名に授与される。
- 第4条 発表期限：過去2年度内に本学会で発表されたものに限る。
- 第5条 応募方法：論文別刷もしくは受理論文原稿のコピー15部、また内容要旨(400字詰原稿用紙2枚以内)、推薦状（自他薦可）ならびに履歴書各1通を幹事会（奨励賞選考幹事）に提出する。なお応募期限は毎年前年度の12月31日までとする（消印有効）。
- 第6条 選考：別記細則により幹事会で審査、決定する。
- 第7条 表彰：本学会の総会時に会長が発表し、賞状ならびに副賞（30万円）を贈る。授賞者が多数の場合は副賞を分割することとする。
- 第8条 改訂：幹事会を経て総会で行う。
- 附則：本選考規定は昭和62年度から実施し、初年度は特例として63年度と併せて表彰する。
- 細則：第1条：審議の上無記名投票により受賞者を決定する。
第2条：投票は会長、幹事8名、指名幹事（会計、庶務各1名）2名および当該研究発表時の座長で行う。
第3条：幹事および座長が候補者である場合は投票できないものとする。

§ 平成6年度第1回「組織培養研究」編集委員会報告

星 宏良

日時：1994年4月21日（木）

場所：岡山大学医学部管理棟 第5カンファレンスルーム

出席者：梅田 誠、加治和彦、蔵本博行、高木良三郎、浜口和之、星 宏良

1. 平成5年度の組織培養研究（第12巻1、2、3、4号）の収支決算報告が、星委員長よりなされた。
全体としての景気の低迷で広告収入が減少したが、その分、編集、制作、印刷の合理化の努力により支出を大幅に抑えることができた。最終的には赤字にならない収支決算になる予定であることが報告された。
2. 平成6年度の組織培養研究（第13巻）の広告収入予定を、平成5年度の実績を考慮して320万円から260万円に減額できるかどうか検討した。この減額分は、支出の場で経費削減が十分できるとの判断にもとづいて、幹事会には予算額の減額をお願いすることになった。
3. 平成5年度には組織培養研究を予定通り4回発行することができたと、星委員長より報告があった。受理された投稿論文は、全体で19編であった。そのうち、14編が英文論文で、学会誌を英文論文主体にした編集方針に沿ったものとなっている。今後特にオリジナル論文を投稿していただくようには、各編集委員で組織培養研究の宣伝に力を入れることになった。
4. 組織培養研究の名前をより普及させるために、カレントコンテンツやメドラインなど文献情報検索サービスに登録してもらうにはどうすべきかの情報収集をすることが議論された。
5. 学協会著作権協議会への加盟の件について、現況報告が加治委員より報告された。加盟の条件や学会の受ける利益の点でまだ不明確な部分も残しているため、他の医学系学会誌の場合の情報収集を行い、最終的判断材料にしたいとの内容が報告された。
6. 本年度は幹事役員改選の選挙があったので、編集委員会規程にもとづき、2名の改選を行った。高木良三郎先生に続き、梅田 誠先生も横浜市立大学学長になられるとのことで、今回は両先生に御勇退いただくことになった。新しく蔵本博行先生（本学会会長）と若手から岡本哲治先生（広島歯学部）の2名を新編集委員として幹事会に推薦することが了承された。

§ 細胞バンク委員会報告

大野 忠夫

1. はじめに

日本組織培養学会細胞バンク委員会は、2年間の期限付き委員会として平成4～5年度には第3次の委員会として成立した。これまでの主な活動として、第1次細胞バ

ンク委員会で細胞株の管理方法に関する具体的な成果が得られ、第2次細胞バンク委員会では培養細胞の保存・供給体制の整備に関する要望書が作成され関係省庁に提出された。第3次細胞バンク委員会では、これらの活動のフォローに加え、主に細胞株の所有権および細胞株使用上の倫理問題に焦点があてられた。この点は特に集中的に議論し、日本組織培養学会以外の関係学会や関係諸機関にもアピールできるよう、案文作成のためにワーキンググループが結成された。その成果は「人体組織および材料を取り扱う場合の基本的留意事項」として、平成6年4月20日に幹事会に提出された。なお、第3次細胞バンク委員会では委員会規約を変更し、委員長は委員の互選によることとした。

2 国内における培養細胞の保存・供給体制の整備に関する活動

第2次細胞バンク委員会で出した「わが国における培養細胞の保存供給体制整備に関する要望書」を受けて、関係各省庁からの回答が寄せられていたが、要望書の内容を実現させていくための具体的活動内容が審議され、各バンクの所属機関長の内意を聞いた。各機関とも要望書の趣旨には賛同しているが、予算の裏付け、全機関間の調整機関が必要との意見が出された。より具体的な活動は今後継続的に検討していくこととなった。

一方、岡山大学医学部では独自に細胞バンク設立の動きがあり、その要請にしたがって本学会会長名で協力を約束する旨の一文を送付した。

3 細胞株データベースについて

これまで2次にわたる細胞バンク委員会で検討し、各委員が所属する機関の細胞バンク間で共通ファイル構造を持つ細胞株データベースを構築してきたが、それを統一カタログとして出版することとなった。また、細胞株の写真、染色体パターン、DNAプロファイル等に利用する画像データベースについて、市販ソフトウェアのデモを含め、検討を開始した。ソフトウェアは変遷が激しい状況にあるため、まだ、決定するには至っていない。

細胞株の同定のため、DNAプローブによるフィンガープリンティング、PCR法によるDNAバンドパターン、等の方法によるDNAプロファイル法について検討を開始した。国際的に共通する方法を定め共有データベース化する方向で進めている。

4 細胞株の所有権および細胞株使用上の倫理的問題について

標記の問題に関しては、世上、十分なコンセンサスは形成されておらず、従来はいまいであった。そこで本委員会では、現在細胞バンクに登録されている既存細胞株については、細胞株樹立者はその所有権を放棄すべきであるとした。その上で今後はいかに取り扱うかが議論された。特に、人体材料については慎重を要するため、本委員会の委員4名よりなるワーキンググループを結成し、より詳細な検討を加え、「人体組織および材料を取り扱う場合の基本的留意事項」報告書としてまとめた。要点は、インフォームドコンセントの充実、倫理委員会によるチェック、コーディネーターの育成、利益が生じた場合の社会還元方法への提言、の3点である。この報告書は日本組織培養学会幹事会の議を経て、我が国の関係機関にアピール文として送付されることを本委員会は望んでいる。

(以上)

§ 研究教育システム委員会報告

委員長 沖垣 達

平成5年度は以下の委員で委員会を構成し、下記の事業を実施致しました。

梅田 誠（横浜市大） 大野 忠夫（理研）
西 義介（JT） 丹羽 章（獨協医大）
沖垣 達（重井医学研、学会幹事）

- 1) 秋季シンポジウム「染色体の構造と機能」の主催を関西学院大学理学部高山 奨教授（会員）に依頼し、11月21日、約100名の参加を得て、盛会のうちに行われました。
- 2) 平成6年度秋季シンポジウムの企画を金沢大学薬学部鈴木文男助教授（会員）に依頼し、金沢大学構内で11月12日（土）に開催される予定です。シンポジウム主催および講師については追ってお知らせ致します。
- 3) 本学会が編集し朝倉書店が発行している「細胞培養技術Ⅱ（1988年刊）」を改定し、Ⅲとして出版する企画を作り明年発刊を目指して編集作業が進行中です。Ⅲは基礎編、応用編の2分冊全1巻とし、内容はⅡの1.5倍程度になります。
- 4) 組織培養技術の実習講座（ワークショップ）の可能性を検討、岩城硝子の実習室を借用して基礎コース、応用コースを開く計画を作成中です。
- 5) 本委員会は平成6年度も継続されることが承認され、委員は以下の通りです。

梅田 誠、大野 忠夫、加治 和彦（都老人研、学会幹事）
西 義介、丹羽 章、沖垣 達（委員長）

なお「組織培養技術Ⅲ」編集委員会は上記委員会で構成し丹羽 章が委員長、ほかに伊井一夫（岩城硝子）、増井 徹（京大）、元岡満雄（朝倉書店）が加わっています。

以上

§ 平成5年度細胞工学委員会報告

委員長 小山 秀機

1. 平成5年5月委員長の小林茂保氏のご死去により、残りの期間を小山秀機が引き継いだ。
2. 東京で2回の委員会を開き、5年度の活動として、岡山で開かれる組織培養学会にリンクしてシンポジウムを開催すること、テーマを遺伝子導入関連に決め、最終的に上のテーマで実施した。
3. 平成5年の本委員会は6年3月で任期を終える。今後の委員会の存続を含めたあり方を討議し、6年度以降も委員会の存在の意義があること、また新しい企画でシンポジウムを続けることで意見が一致した。
4. これらの活動を4月20日に開かれた幹事会に報告し、平成6～7年の2年間委員会を継続（小山委員長）することが認められた。

§ 名誉会員推戴

本年度第一回日本組織培養学会幹事会で山根 績、佐藤二郎両先生の名誉会員推戴が、満場一致で承認されました。



山 根 績 名誉会員 略歴

- 大正11年7月1日 岡山に出生、第六高等学校を経て
- 昭和21年 東北帝国大学医学部卒業
- 昭和22年 東北大学副手（医学部細菌学教室）
- 昭和24年 東北大学大学院特別研究生
- 昭和27年 医学博士授与
- 昭和27年 福島県立医科大学助教授（細菌学）
- 昭和32年 東北大学助教授（抗研、微生物学）
- 昭和33年 米国加州州立大学留学
- 昭和35年 留学より帰国
- 昭和36年 東北大学教授（抗研、微生物学）
- 昭和51年 第二十九回日本組織生物学会会長
- 昭和52年 東北大学教授（抗研、細胞生物学）
- 昭和59年 通産省工業技術院 バイオテクノロジー専門委員
- 昭和60年 第三回国際細胞培養会議会長
- 昭和61年 停年退官
- 昭和61年 東北大名誉教授

細菌、培養細胞の試験管内の増殖に共通の要素を解明。主として、結核菌、培養細胞の試験管内増殖用無血清培地の開発、ヒトアデノウイルスによる正常細胞の癌化、ハイブリッドないしハイブリドーマ細胞形成法、細胞老化およびヒト培養細胞の産生する生理活性物質に関する研究を行った。

「名誉会員」を御受けして

東北大学名誉教授 山根 績

此の度岡山大の佐藤名誉教授と共に本学会の名誉会員に推されましたことは、1957年以来本学会に関係してきた者として、大変名誉なこととして喜んで御受けしました。

ここではこの場を借りて最近のがん研究の進歩について言及してみたい。というのは

これらのがん研究もすべて最近の進歩した細胞培養法を利用して達成されたからである。現在ではがんはすべてどんな種類であっても、DNA（由来）の病気と云っても決して過言ではない。このDNAとは現在まで約100種類が判明している、いわゆるがん遺伝子と腫瘍抑制遺伝子である。この二種類の遺伝子の発現の上に、宿主の発癌および発癌抑制が現れることが明らかとなった。殊に腫瘍抑制遺伝子の変異については、臨床例を用いて多数の報告が内外に現れたが、その多くはp53に関するものであった。ところが最近になって肺、乳腺、膵およびメラノーマ等の抑制に働いているMTS1（p16と同じ）の重要性が発見され、その知見がつきつぎに報告されている。この知見に基づきメラノーマの摘出患者にメラノーマ・ワクチンの投与も報告されるようになってきた。

いつれにせよがんの診断、予防および治療の方向は大きく変化するに違いない。また前学会シンポジウムで米国のL. Hayflickが述べられたように「不死化」細胞に特有のテロメラーゼ（染色体のテロメヤー分解酵素）を阻止する物質の探求も制癌の大きな指標となるであろう。

佐藤二郎 名誉会員 略歴

大正13年5月10日 岡山市にて出生
昭和19年9月 第六高等学校卒業
昭和23年9月 岡山医科大学卒業
昭和26年4月 岡山医科大学助手（病理学）
昭和27年2月 岡山大学医学部講師（病理学）
昭和28年7月 岡山大学医学部助教授（病理学）
昭和35年6月 岡山大学医学部付属癌源研究施設病理学部門助教授に配置換
昭和38年4月 日本組織培養学会第15回研究会（岡山）世話人
昭和41年4月 岡山大学医学部付属癌源研究施設病理学部門教授
昭和44年4月 岡山大学評議員
昭和44年5月 岡山大学学生部長
昭和46年4月 岡山大学医学部付属癌源研究施設長
昭和54年11月 日本組織培養学会株名登録委員長
昭和59年4月 科学技術会議専門委員
昭和59年4月 日本組織培養学会会長
昭和59年7月 財団法人がん研究振興財団委員
昭和60年4月 岡山大学医学部付属図書館長
昭和60年5月 日本組織培養学会第58回大会（箱根）世話人
昭和61年8月 日本組織培養学会秋季シンポジウム開催を制定
昭和62年5月 岡山大学付属図書館長
昭和62年6月 日本組織培養学会奨励賞を制定
平成元年6月 日本組織培養学会第62回大会で特別講演『細胞培養と共に30年』
平成2年3月 岡山大学停年退官
平成2年4月 岡山大学名誉教授
平成6年4月 日本組織培養学会名誉会員

§ 新しい幹事の活躍に期待して

会長 蔵本 博行

昨年度末の幹事選挙の結果、大野忠夫、宮崎正博（以上40歳以上）、佐藤靖史、渡辺純（以上40歳未満）の4氏が新しい幹事に選任された。会員の信任の下に選出された、各分野で活発に活動されている有意の方々であることは言うまでもない。

幹事の任期は2年であるが、毎年半数ずつ交代し学会活動に支障を来さないようにとする主旨の、新しい選挙制度に則った最初の選挙によって退任された方々である。前回の過渡的処置によって3カ年任期の現幹事4氏と共に本年度の学会が運営される。

この流動的な世界の中で、本学会も種々な問題を抱えている。年4回発刊となった機関紙、組織培養研究をもっと充実させたい。大会やシンポジウムをより実りあるものにしたい。それを支える財政問題。奨励賞を中心とした若い将来性ある研究者の登用、組織培養に関する先端的な指導書の刊行、培養研究を支える細胞株の恒常性ある供給（cell bankの整備）、今後生じるであろう細胞株に関する倫理問題に対する対処、などであろう。

これ等の問題の解決や、目標の到達に向かって、新幹事の力強いエネルギーが大いに期待されている。日本組織培養学会のために尽力されんことを強く願いたい。

編集後記

第67回日本組織培養学会は平成6年4月20日の細胞工学シンポジウムを皮切りに22日迄の3日間、難波正義会長の主催により岡山大学医学部で開催されました。“遺伝子発現の誘導”や“遺伝子導入”の研究など近未来の“遺伝子治療”に結び付く可能性の高い発表も多く、探究心を大いにそそられた3日間でした。また、外国からのそうそうたる顔ぶれの演者による講演とともに、21日夕方に催された瀬戸内海クルーズも今回の学会のハイライトの一つでした。船上の華やいだ宴に時の経つのも忘れていたうちに、瀬戸大橋が夕闇の中に巨大な姿を現わした時は正に圧巻でした。このような素晴らしい企画を立てられた難波会長に紙面をお借りして深く感謝の意を表したいと思います。

今回、経費節約のために会員通信を学会誌送付時に同封して皆様方のお手元にと企画いたしました。初めての試みですが、御了解の程宜しくお願い申し上げます。

(Y. U.)

平成5年10月から平成6年3月末まで
(5月末日現在)

新入会員

氏名	現住所	所属機関・所在地
木村 幹夫	〒679-23兵庫県神崎郡市川町西田中 21-2 ☎0790-26-1786	国際試薬(株) *〒651-22神戸市西区室谷 1-1-2 ☎078-991-2212
原澤 亮	〒121 足立区六月 3-9-12 ☎03-3860-7041	東京大学医学部附属動物実験施設 *〒113 文京区本郷 7-3-1 ☎03-3816-5680
湯浅 智恵	*〒771-43徳島県勝浦郡勝浦町大字沼江 字田中 46 ☎08854-2-3304	大鵬薬品工業(株)製薬センター-化学療法剤研究所 〒771-01徳島市川内町平石夷野 224-2 ☎0886-65-3570
本合 幹	*〒626 宮津市字宮村 1281-1 ☎0772-25-2053	京都府立医科大学眼科学教室 〒602 京都市上京区河原町通広小路 上ル槐井町 465 ☎075-251-5578
三辺 秀之	〒158 世田谷区玉川台 2-29-9 細川荘 202 ☎03-3707-6537	国立衛生試験所変異遺伝部細胞バンク *〒158 世田谷区上用賀 1-18-1 ☎03-3700-1141
中川 豊	〒913 福井県坂井郡三国町緑ヶ丘 4-23-20 小野薬品三国寮 ☎0776-82-7683	小野薬品工業(株)福井安全性研究所 *〒913 福井県坂井郡三国町山岸 50-10 ☎0776-82-6161
荒田 悟	〒153 目黒区中目黒 3-11-10 ☎03-3710-6912	昭和大学薬学部微生物学教室 *〒142 品川区旗ノ台 1-5-8 ☎03-3784-8209
黒川 弘子	*〒228 相模原市相模大野 4-5-3-810 ☎0427-45-4570	北里大学医学部産婦人科 〒228 相模原市北里 1-15-1 ☎0427-78-8111
辻井 篤	*〒216 川崎市宮前区宮前平 2-17-1 宮前平サンハイツ 407 ☎044-855-5500	北里大学医学部 〒228 相模原市北里 1-15-1 ☎0427-78-8414
米沢 由美子	〒174 板橋区前野町 6-10-3-403 ☎03-3969-8616	東京都老人総合研究所実験生物学部 *〒173 板橋区栄町 35-2 ☎03-3964-3241
江崎 嗣良 干	☎	ゲンゼ(株)京都研究所 *〒623 綾部市井倉新町石風呂 1 ☎0773-42-0141

氏名	現住所	所属機関・所在地
諸田 勝保 千	〒 ☎	グンゼ(株)京都研究所 *〒623 綾部市井倉新町石風呂 1 ☎0773-42-0141
山口 聡 千170	豊島区南大塚 3-3-6-401 ☎03-3985-5615	東京医科歯科大学歯学部第一口腔外科学 講座 *〒113 文京区湯島 1-5-45 ☎03-3813-6111
西 一也 千700 407	岡山市春日町 5-31 不二興ビル ☎086-232-1863	岡山大学歯学部予防歯科学講座 *〒700 岡山市鹿田町 2-5-1 ☎086-223-7151

§ 住所変更

氏名	現住所	所属機関・所在地
塚崎 克己 千242	大和市下鶴間 22-12 ☎0462-76-2577	慶應義塾大学医学部産婦人科 *〒160 新宿区信濃町 35 ☎03-3353-1211
森沢 孝行 千		竜王レディースクリニック *〒400-01山梨県中巨摩郡竜王町篠原 219 ☎
小野 順子 千814	福岡市早良区荒江 2-10-20 ☎092-831-5266	福岡大学医学部臨床検査医学 *〒814-01福岡市城南区七隈 7-45-1 ☎092-801-1011
渡辺 幸彦 千590-02	和泉市光明台 1-15-5 ☎0725-56-7543	シオノギ製薬医学研究所 *〒566 摂津市三島 2-5-1 ☎06-382-2612
高橋 君子 千189	東村山市恩多町 5-46-6 ☎0423-95-1915	東京医科大学霞ヶ浦病院検査部 *〒300-03茨城県稲敷郡阿見町中央 3-20-1 ☎0298-87-1161
小西 正 千	☎	㈱池田理化 *〒101 千代田区鍛冶町 1-8-6 神田KSビル ☎03-5256-1818
松本 一彦 千	☎	日本たばこ産業(株)安全性研究所 *〒257 秦野市名古木 23 ☎0463-81-1277
阿部 好文 千215	川崎市麻生区下麻生 1165-62 ☎044-988-6017	東海大学医学部内科学第七教室 *〒259-11 伊勢原市望星台 ☎0463-93-1121

沢崎嘉男	〒350-13 狭山市柏原 3116-202-39-7 ☎0429-53-2957	防衛医科大学校第一解剖学 *〒359 所沢市並木 3-2 ☎0429-95-1211
矢島 聡	〒236 横浜市金沢区高舟台 1-13-20 ☎045-782-6777	高砂香料工業㈱基礎研究所第一部 *〒254 平塚市西八幡 1-4-11 ☎0463-25-2053
新田耕作	〒735 A812 広島県安芸郡府中町青崎東 11-8 ☎	広島大学医学部第二外科 *〒734 広島市南区霞 1-2-3 ☎082-251-1111
松浦知和	*〒179 練馬区光が丘 5-2-5-905 ☎03-3979-9291	東京慈恵会医科大学第一内科学教室 〒105 港区西新橋 3-25-8 ☎03-3433-1111
刈草富美子	〒203 東久留米市前沢 4-9-19 ☎0424-74-3730	東京女子医科大学医用工学研究施設 *〒162 新宿区河田町 8-1 ☎03-3353-8111
中川原寛一	〒982 仙台市太白区鉤取本町 2-11-11 ☎022-245-2111	日本遺伝子研究所 *〒983 仙台市宮城野区燕沢東 3-11-18 ☎022-251-0481
小西省三郎	〒662 西宮市松風町 6-30-201 ☎0798-73-0189	大阪市立総合医療センター小児内科 *〒534 大阪市都島区都島本通 2-13-22 ☎
坂倉康則	〒002 17-8 札幌市北区あいの里2条4丁目 ☎011-778-2084	北海道医療大学歯学部口腔解剖学第一講座 *〒061-02北海道石狩郡当別町金沢 1757 ☎01332-3-1211
与那嶺京子	〒213 川崎市高津区梶ヶ谷 4-1-4 ブランドール梶ヶ谷 103 ☎044-854-0921	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 産婦人科 *〒241 横浜市旭区矢指町 1197-1 ☎045-366-1111
佐藤光男	〒194 町田市旭町 3-6-6 研友寮 202 ☎0427-29-5295	協和発酵工業㈱東京研究所玉沖グループ *〒194 町田市旭町 3-6-6 ☎0427-25-2555
山田則子	*〒174 板橋区前野町 6-10-1-601 ☎03-3965-9629	東京女子医科大学医用工学研究施設 〒162 新宿区河田町 8-1 ☎03-3353-8111
野田直子	〒870 大分市北下郡 8組 ☎0975-69-1024	東国東広域国保総合病院内科 *〒873-02大分県東国東郡安岐町大字下原 1456 ☎0978-67-3190
白立岩	〒700 岡山市富町 2-20-17 ☎086-253-9344	日本シェーリング㈱研究部生物研究グループ *〒532 大阪市淀川区西宮原 2-6-64 ☎

田 辺 秀 之 〒213 川崎市高津区坂戸 2-9-5
メゾンドール荻島 107 ☎044-811-2407

国立衛生試験所変異遺伝部細胞バンク
*〒158 世田谷区上用賀 1-18-1 ☎03-3700-1141

§ 退 会

氏 名	機 関 名
小 島 雅 彦	小島皮膚科クリニック
高 野 宏 一	日本たばこ産業㈱
間 武 雄	日本医科大学
阿 部 力	
岡 田 善 雄	大阪大学細胞生体工学センター
白 石 真 人	㈱ニチレイ研究所
光 山 冬 樹	藤田保健衛生大学附属病院
田 畑 真 人	宮崎医科大学
鈴 木 啓 司	横浜市立大学医学部
井 上 幸 重	京都大学ウィルス研究所
藤 澤 龍 一	昭和大学医学部
佐 藤 進	㈱森永生科学研究所
今 田 勝	明治乳業㈱ヘルスサイエンス研究所
延 原 正 弘	持田製薬㈱研究所
田 中 裕 之	昭和大学藤が丘病院
宮 尾 源 二 郎	昭和大学藤が丘病院
吉 田 篤 正	昭和大学藤が丘病院
大 原 洋 一 郎	大原綜合病院
中 島 光 業	森永乳業㈱生物科学研究所
北 澤 利 記	大塚製薬㈱眼科用外用製品事業部赤徳研究所
山 下 均	防衛医科大学校衛生学
今 西 重 雄	蚕糸・昆虫農業技術研究所

日本組織培養学会会長 殿

下記の若手研究者を日本組織培養学会奨励賞に推薦いたします。

氏 名：
生年月日：
所 属：
住 所：
電 話：

本学会での発表

年 月 日：
演 題 名：
発表者氏名：（全員記入のこと）

発表論文：（論文名：著者、題名、雑誌名、巻、号、ページ、年）

推薦理由：（別紙の場合はB5版400字詰め原稿用紙2枚以内）

平成 年 月 日

推薦者氏名：
所属・現職：
住所：
（自薦の場合は本人の所属、氏名）

*本用紙をコピーしてお使い下さい。